

広島県がん対策推進協議会 第1回がん患者支援部会 議事録要旨

1 日 時 平成20年9月18日(木) 19:00~20:20

2 場 所 県庁北館2階 第1会議室

3 出席委員

氏名	所属及び役職名	氏名	所属及び役職名
岡崎 仁史	広島国際大学医療福祉学部長	高野 亨	がん患者支援ネットワークひろしま理事
佐々木佐久子	広島がんサポート理事	高田 佳輝	社団法人広島県医師会常任理事
田部 佳子	呉医療センター地域医療連携室専門員	西本千恵美	福山市保健所健康推進課長
野村 邦明	広島県健康福祉局保健医療部長	山内 雅弥	中国新聞社論説委員

4 議 題 (1) 平成20年度協議事項・スケジュール

(2) 県がん情報ホームページの作成について

5 担当部署 広島県健康福祉局保健医療部医療政策課医療支援グループ

電話(082)513-3063(ダイヤルイン)

6 会議の内容

がん情報ホームページについて

(ホームページに掲載する情報について)

- がん専門医に関する情報については、人数だけでなく専門医の氏名まで公表して欲しい。
- 患者としてはどの先生がどの程度、どのように治療をされているのかについても知りたい。
- 病院のホームページなどでは、手術件数としてがんの手術なのか何の手術なのか分からない状況で掲載されている。部位別の手術件数などがあれば良い。
- 現在はチーム医療が中心のため、個々の先生の治療成績を載せるのは困難。例えばある病院の呼吸器外科の成績は出せても、個々の先生の成績を出すのは難しい。
- 専門医の人数、名前を出すといったことは可能であるし、病院としてはむしろ出したい。
- 拠点病院ごとの医療情報や治療実績については、患者支援部会で出された意見を元に、拠点病院のがん診療連携協議会で検討する。
- 患者としては主治医から治療方針について聞かれることもあるため、がんに関する専門的な知識を求めている。学会の治療ガイドラインなど、参考文献の掲載を検討して欲しい(例：国立がんセンター、患者図書館の文献コーナー等)。
- がん患者から相談を受けていて感じるのは、自分の病気をはっきり理解していないということ。患者本人が自分自身のがんについて正確に理解するのに必要な情報を載せて欲しい。
- がん種別の情報については、希少種のがんについても情報を載せて欲しい。

(患者団体及び患者団体が実施するイベント情報等の掲載基準について)

- 県内にある多くの患者団体が載らないようなホームページでは役に立つとは言えない。

- NPO団体ががん患者団体の情報を束ねて持っておいて、そこが出していく情報に関しては県のホームページとリンクできるといった方法もある。
- NPO法人だからと言って患者さんにとって不利益な活動をする団体がないとは言い切れない。
- 県に情報を載せて欲しい場合は届出をしてもらうということである程度フォロー出来ないか。その情報についてはあくまでも主催者から出しているのので県としては責任を負えない面もある旨明記して、あくまで個人の判断で参加してもらうということで情報を出していく方が良いのではないか。
- 患者団体を紹介する際に、特定の治療法を勧める患者会等については注意するようコメントを載せたらどうか。
- 患者団体に活動内容を記載したものを求めるとか、主催者側に責任を求めるようにすべき。
- 県内に2つしかないNPO団体が出していくお知らせというのはそう数はない。たくさん情報として県民に知らせる必要がある。
- ホームページに患者団体を載せたとしても、後々追加、更新がどうしても必要となるので、ワーキングなどを定期的に行うなどの必要があつてかなりの負担となる。
- 患者団体がイベントなどする際には、拠点病院に共催を求める形をとって、拠点病院が患者団体の社会的信用性を判断して共催するか否か判断してもらうという方法はどうか。
- まず市町の段階で名義後援などの審査を経る方法もあるのではないか。
- 拠点病院以外の病院についても出来る限り情報を載せて欲しい。
- 新聞社が主催する事業が載らないのはおかしい。基準の見直しをして欲しい。

がん患者・家族相談支援事業について

- 相談支援センターや患者団体の相談窓口では、医療知識だけでなく患者の食生活の面での支援などが求められており、かなり重要な役割を果たすこととなる。
(例：ウィッグをどこで求めるか、食事をどうすればよいのか 等)

その他

- 本県では肝炎のウィルス検査が進んでおり、肝臓がんについては専門医の情報なども載せていければ良い。
- がん検診受診率は対象となる母数が決まっていないため各市町ごとの比較が難しいというのが現状。
- 各市町ごとに検診受診機関を掲載して欲しい。
- 職域の検診受診率の把握が進んでいないのが課題である。
- 県民へのがんの啓発については、対象を意識した啓発が必要。
- 県民・患者主体でやっていくには、患者団体が対がん運動をやっていくべき。全国のガン征圧月間に合わせてやっていければよい。

- 対がん運動を患者団体，あるいは専門職が進めていけば，そこから患者団体の緩やかなネットワークが出来るのではないか。

7 会議の資料名一覧

- 資料1 広島県がん対策推進協議会設置要領，同部会運営要領，広島県のがん対策推進体制
- 資料2 「広島県がん対策推進協議会」がん患者支援部会 平成20年度協議事項・スケジュール(案)
- 資料3 県がん情報ホームページ掲載内容(案)
- 資料4 県がん情報ホームページへの掲載基準(案)
- 資料5 がん患者・家族相談支援事業について